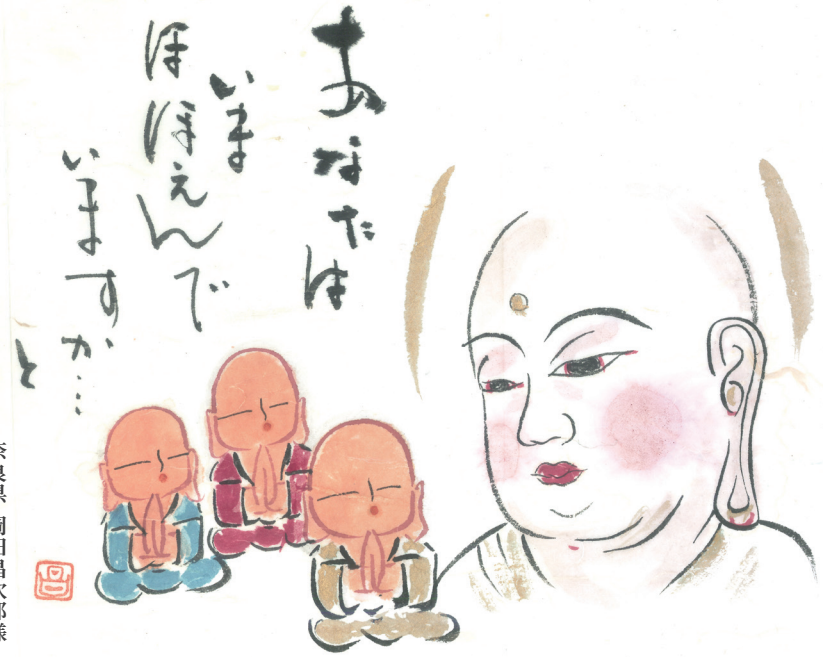




長野県小布施町
岩下宗史様作



奈良県 岡田昌次郎様
からのお便り

絆の力

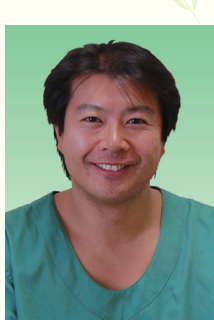


2011年3月11日の震災6日後、被災地に行きました。行かないで済む理由はいくらでもありましたが私の心がそれを許しませんでした。キャンピングカーを友人が持っていたので借り、20Lのガソリントank 4つを手に入れ燃料で満たし、スペアタイヤとパンク修理セット多数と非常食80kgを用意、JMAT（日本医師会災害医療チーム）に申請し岩手県釜石市大槌町に伺いました。

その当時の凄惨さはテレビで伝えきれない状況でしたが、被災地の皆様は笑顔で迎えてくれました。ところが医師として大きな怪我や病気への対応はできても、肉親を亡くした方々の心中をお察しすると、移動時間中は涙が止まりませんでした。あらためて自分がとても弱い人間だと思い知らされました。そして10か所、延べ400人の患者さんの診療をお手伝いし、帰り道に気づいた事がありました。それは自分の弱さや嫌いなところがスーッと昇華していくのを感じたのです。



私は今、ボランティア活動とは自分のためにするものだと解釈しています。3月11日に起きてしまった大地震は、とても悲しい出来事です。しかし自信を無くした日本人が、今一度他の人に勇気を与えようとする事で、自信を取り戻せるチャンスだと私は信じたいと思います。もし読者の方に「自信を持ってない」「将来が不安だ」という方がいたら、小さくても良いので何かボランティア活動をしてみてはいかがでしょうか？きっと活動後、元氣と自信というお土産を手にすることができることでしょう。



くわのクリニック院長
くわの ゆうすけ
桑野 雄介

日本医科大学医学部を卒業後、慶応義塾大学医学部外科学教室に入局。その後、千葉県内の総合病院勤務を経て、現在は同県内「くわのクリニック」院長として総合医療に従事し、講演会活動も行っている。

あっても思いやる気持ちで乗り越えていく：「絆」です。私はできるだけ多くの皆さんと「絆」で結ばれていけるよう意識して生きたいと思っています。そしてその究極の形こそが「二つになるう、日本！」なのだと思います。これですごく言葉だつたんですね、大事にしたい言葉です。

「二つになるう、日本！」

